

CSJ Annual Report
2022

日本化学会アニュアルレポート

目次

Top Message・・・01

日本化学会中長期基本戦略（2020年～2025年）・・・02

2021年度活動 pick up と2022年度の活動方針・・・03

春季年会・CSJ化学フェスタ・・・04

講演会・講習会・実験教室の開催・・・06

化学を広める・未来の化学者を育てる・・・08

キャリア支援・・・10

論文誌・出版・・・12

社会に向けた様々な取り組み・・・14

グローバリゼーション・・・15

表彰事業・・・16

企業・団体からのご支援・・・17

化学会概要・・・18

会計報告・・・20

ノーベル賞受賞会員

日本化学会とは

日本化学会は、化学を中心とする多様な領域の研究者・技術者・教育者・学生が研究成果を発表し、交流する日本を代表する化学者コミュニティです。その目的は、産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することにあります。



日本化学会は SDGs を推進した活動を心がけています

Top Message

——世界の化学会を目指して



持続可能な社会の構築に寄与する 化学を支える日本化学会としての貢献

この2年間、人類はコロナパンデミックに翻弄された。残念ながらまだ終息とは言えないまでも、徐々にその出口は見えてきている。一方で、このパンデミックは我々人類の英知を知る機会にもなった。コロナワクチンの迅速な開発はもちろんのこと、わずか2年で経口薬まで患者に提供されるようになったことは驚くべきことだ。これらには生物学の基礎研究や技術力だけでなく、化学の技術も大きな寄与をしており、ロジスティクスを含めた「総合的な人類の知（総合知）」によって切り抜けてこれたことに間違いない。一方、我々人類にはもっと長期的に深刻な課題、すなわち地球環境を守りつつ、炭素資源を循環できる持続可能な社会の構築を導く必要がある。「カーボンニュートラルな社会の構築」「炭素循環型社会の構築」には、まさしく総合知が必須であることは自明ではあるが、化学はその中心をなすべき存在だ。それは、化石資源をもとに生産されたエネルギーや化学製品の消費が人類の生活上の快適さと経済的な豊かさを人類にもたらしたがゆえに、これからは化学が持続可能な社会の実現に向けた新技術を開発していく役割を果たすべきであり、また逆に化学だからこそ実現できることでもある。そのためには、アカデミアと産業界の協業は不可欠であろう。また、それはSDGsに関わるいかなる研究分野の化学にも同様のことが言える。日本化学会は、そういった将来の化学者を育成支援する場であり、アカデミアと産業界の交流の場でもある。これまでもその役割を果たしてきたが、日本政府や経団連が進める「スタートアップエコシステムの構築」「スタートアップ躍進ビジョン」を念頭に、化学に直接的、間接的に関わるスタートアップ企業を含めた産学協業のサポートも必要であろう。日本化学会は、公益社団法人として持続可能な社会の構築に寄与する学会であり続けるべく、努力を続けたいと考える。

東京大学理学部化学科
菅 裕明

日本化学会中長期基本戦略

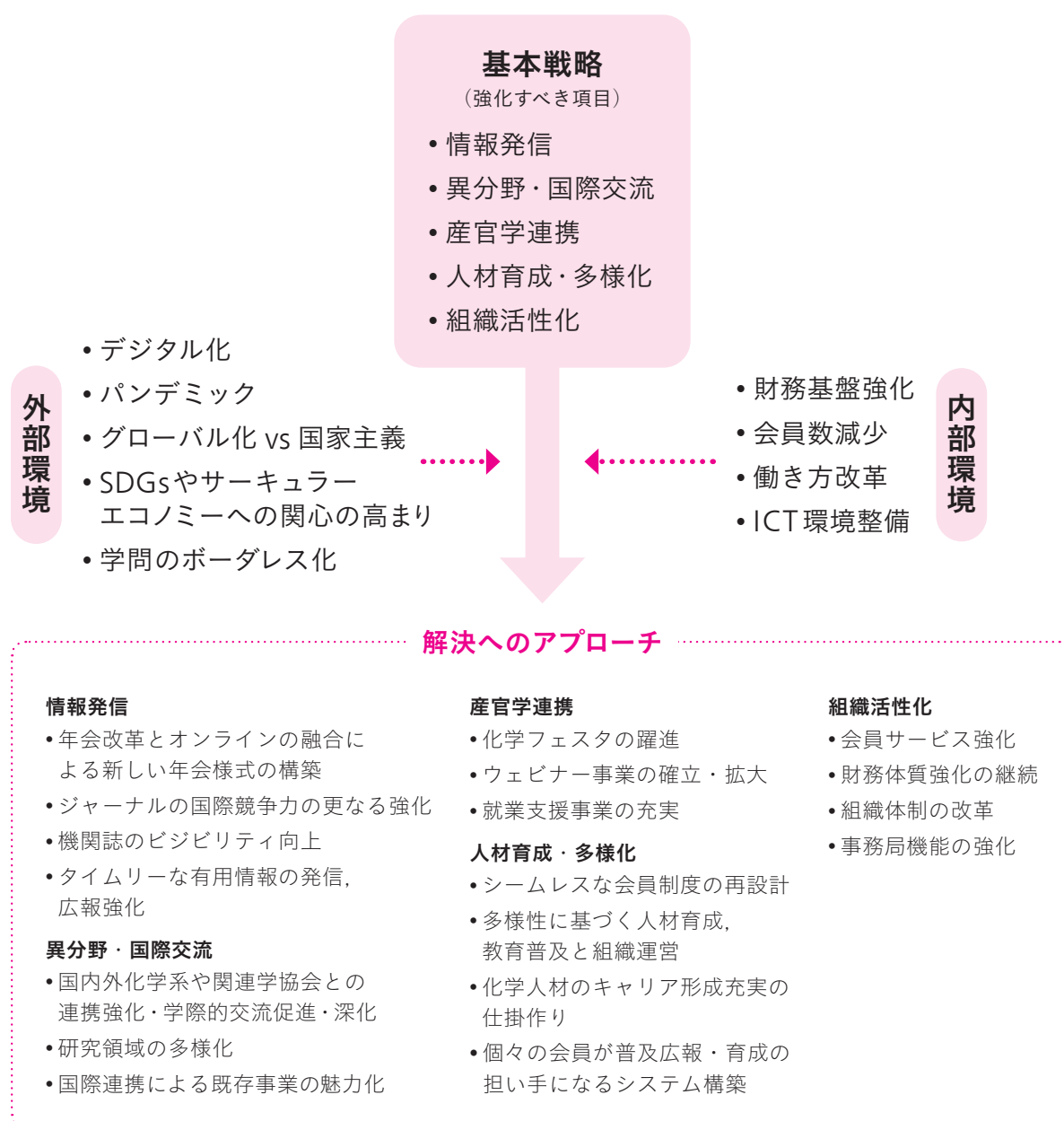
(2020～2025年)

基本理念

日本化学会は、産官学の化学に関わる会員により構成され、世界を先導する研究および技術開発による基礎科学の発展ならびに社会実装を通して、持続可能な社会の構築に貢献します。

基本理念から導かれる 基本戦略

基礎科学の発展／社会実装の実現



2021年度活動 pick up・ 2022年度活動方針

2021年度活動 pick up

2021年度は年間を通してカーボンニュートラルを取り上げた活動を多く実施してきました。さらに延期になっていた5年に一度の Pacificchem が完全オンラインで開催されました。また、故・長倉三郎先生のご遺族からご寄付を受けて「長倉三郎賞」が新設されました。



長倉三郎賞表彰楯



「2050年カーボンニュートラルの実現」—地球規模の課題に取り組む化学系学会—



2022年度活動方針

中長期基本戦略 強化すべき項目	解決へのアプローチ	2022年度活動方針
情報発信	• 年会改革とオンラインの融合による新しい年会様式の構築 • ジャーナルの国際競争力の更なる強化 • 機関誌のビジビリティ向上 • タイムリーな有用情報の発信、広報強化	第102 春季年会の確実な実施と収益性を意識した103 春季年会の推進 被引用の獲得：ジャーナルの徹底発信／発信に対しての分析実施 次期科研費や海外出版社への業務委託に向けた議論の継続と具体化 新規発信方法の確立による機関誌のビジビリティ向上 会員の役に立つ情報のタイムリーな発信 様々な情報発信方法の確立による化学会情報発信力の強化
異分野・国際交流	• 国内外化学系や関連学協会との連携強化 • 学際的交流促進・深化 • 研究領域の多様化 • 国際連携による既存事業の魅力化	関連学協会との連携強化の継続 2020 年から延期となっている CS3 の日本開催 コロナ禍で停滞している国際交流イベントを再開 化学会の IUPAC や FACS への貢献度向上および国際機関との連携強化
産官学連携	• 化学フェスタの躍進 • ウェビナー事業の確立・拡大 • 就業支援事業の充実	CSJ 化学フェスタの持続的運営と収益改善 財務体質強化を目指した新規事業創出の検討 就業支援事業の最適化
人材育成・多様化	• シームレスな会員制度の再設計 • 多様性に基づく人材育成、教育普及と組織運営 • 化学人材のキャリア形成充実の仕掛け作り • 個々の会員が普及広報・育成の担い手になるシステム構築	会員制度のシームレス化に向けた基本構想の策定 多様性に関する課題を踏まえたイベントの実行 化学会ウェブサイト、ウェビナーを活用したキャリア形成に役立つコンテンツの検討 代表正会員制度の見直し、活用
組織活性化	• 会員サービス強化 • 財務体質強化の継続 • 組織体制の改革 • 事務局機能の強化	会員サービス向上と組織的な会員維持への対応（個人会員、法人会員） 黒字化に向けた財務体質の健全化（寄附・資産運用、会館賃貸事業等） 支部、ディビジョンのあり方の見直し 会員サービス向上を目的とした DX（デジタルによる価値創造）推進



春季年会・CSJ化学フェスタ

本会では、春と秋に二大イベントを開催しています。

日本はもちろんのこと、世界各地から化学という共通点を持った

様々な分野の研究者が一堂に会す化学系学会最大級のイベントです。

インターネットや文献などの情報収集ではできない「ディスカッション」「face to faceの情報交換」

「産学官の垣根を超えた人脈作りの場」として活用してもらうことを目的として開催しています。

春季年会

国内外から約 6,000 名の参加者と情報がダイナミックに交わる国内最大級の学術イベントとして毎年 3 月中旬～下旬に 4 日間連続で開催されます。講演件数は約 4,000 件に上り、最先端の化学技術に関する情報を密に、深く、広く、得ることができます。また、国際化の一環として英語化を推進しており、年々英語での発表が増えています。第 101 春季年会（2021）は COVID-19 の影響により初のオンラインではありましたが、成功裏にて開催しました。また年会改革のもと、各方面で従来の運営から少しずつ変化を取り入れています A 講演と B 講演を分けたセッション構成とし、聴講しやすい環境づくりを目指しています。

2021年度開催実績

● 第 101 春季年会

参加者数：5,385 名

講演件数：3,555 件

会場：オンライン開催 (Zoom)



[上] シンポジウム

[下] 年会本部

CSJ 化学フェスタ

2011 年の世界化学年に秋季事業の一環として「産学官の交流深耕」と「化学の社会への発信」を目的にスタートしました。毎年 10 月中旬～下旬に 3 日間連続で開催され約 3,000 名が参加します。参加者は産学官それぞれの立場から「エネルギー・資源・環境」、「新素材」、「バイオ」分野の最新の化学と技術を紹介する約 200 件のテーマ企画講演および約 1,000 件の学生ポスター発表を聴講できます。第 11 回を迎えた 2021 年は、2020 年に続きオンラインにて開催しました。会社、大学、自宅、また海外からも参加でき、画面越しではあるもののリアルタイムでのディスカッションを実現し、参加者からは好評のイベントとなりました。今後も、現地開催、オンライン開催に関わらず産学官がさらに交流を深めていけるような様々な挑戦をしていく予定です。

2021 年度開催実績

● 第 11 回 CSJ 化学フェスタ

参加者数：3,541 名

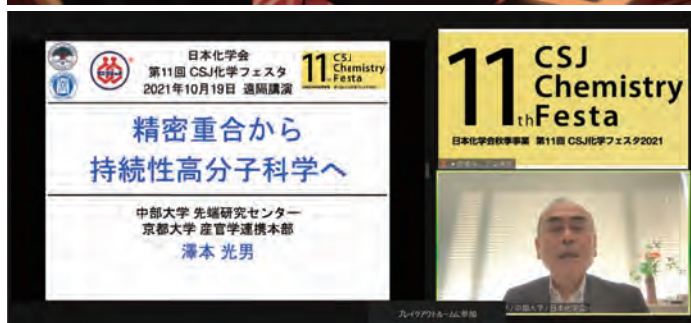
講演件数：1,176 件

会場：オンライン開催 (Zoom)

[上] 運営本部

[中] 講演

[下] オンライン交流会



市民に開かれた講座

春季年会、CSJ 化学フェスタでは会員向けだけでなく、市民の皆さまに向けた講座を開催しています。普段、化学に関わりのない一般市民の方々に化学にもっと親しみを持ってもらおう、化学の有益性を知ってもらおうということが目的です。子供向けの講座は特に人気で毎回定員を超える応募を頂戴しています。



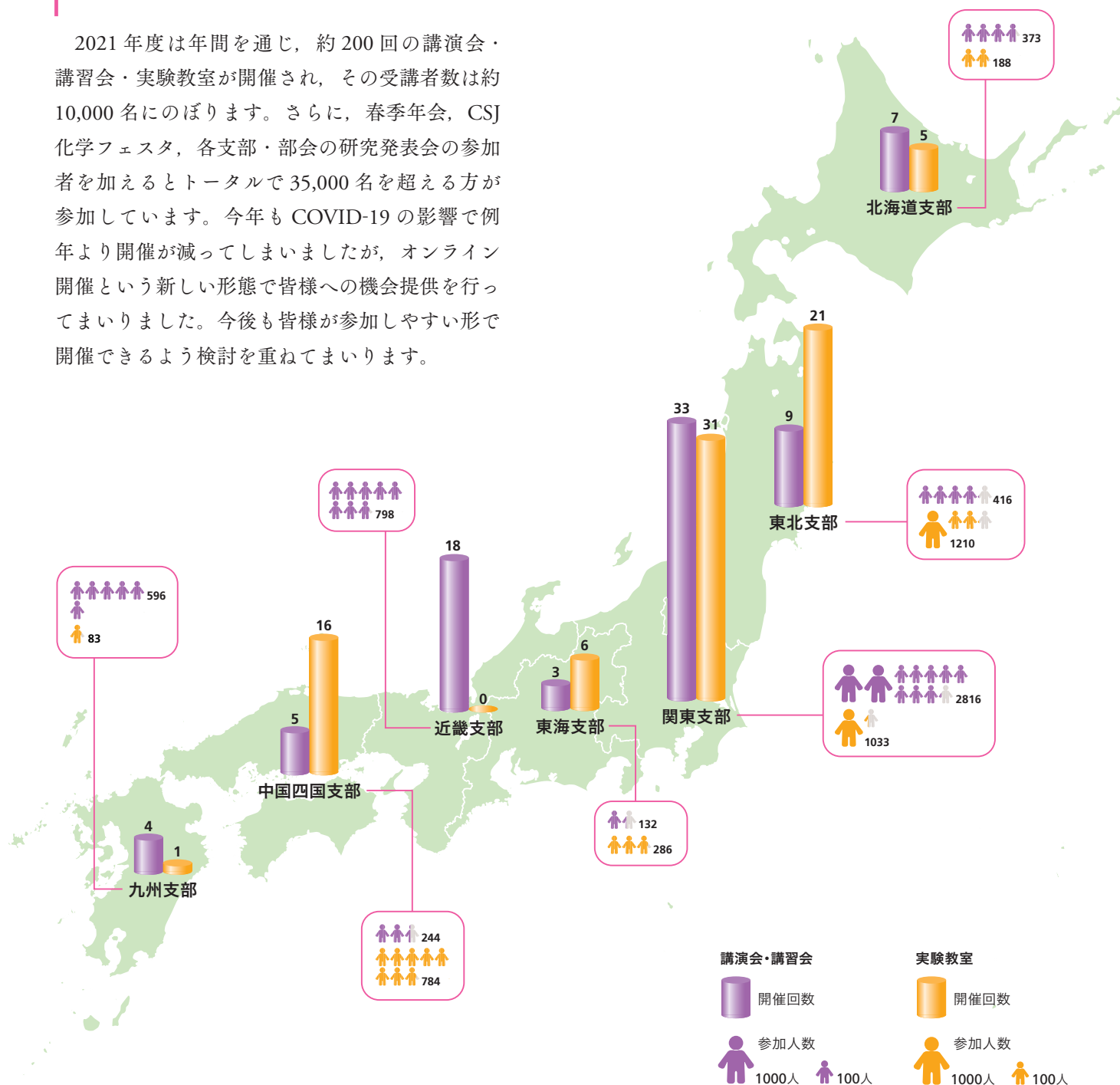
年会市民公開講座

講演会・講習会・実験教室の開催

変化の激しい現代社会では、最新の専門知識が求められる一方、その高度な専門知識を活かすだけの基礎知識も求められるという二面性を持っています。前述の春季年会、CSJ化学フェスタ以外にも、研究者、教育者にとって有益な情報をもたらす機会を全国規模で多く提供しています。

講演会・講習会・実験教室

2021年度は年間を通じ、約200回の講演会・講習会・実験教室が開催され、その受講者数は約10,000名にのぼります。さらに、春季年会、CSJ化学フェスタ、各支部・部会の研究発表会の参加者を加えるとトータルで35,000名を超える方が参加しています。今年もCOVID-19の影響で例年より開催が減ってしまいましたが、オンライン開催という新しい形態で皆様への機会提供を行ってまいりました。今後も皆様が参加しやすい形で開催できるよう検討を重ねてまいります。



R&D 懇話会

先端化学技術の話題について、2名の講師に講演いただく小規模セミナーです。講演会および意見交換会で、講師・参加者および参加者相互の交流深耕を図ることも大切な目的の一つです。近年は講演会だけでなく、研究所の見学会も企画され、業務知識として必要な方だけでなく、最新の化学技術に興味がある方など多くの方が参加しています。

2021年度開催実績

開催回数：6回
参加者数：323名
会場：オンライン開催 (Zoom)

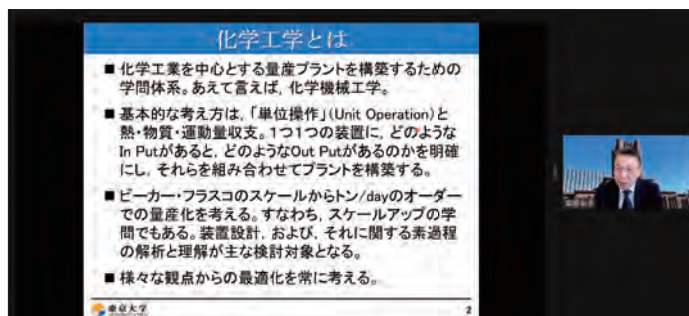


化学技術基礎講座

当該分野の知識習得が必要な企業の技術系新入社員、中堅技術者などを対象とした2日間の短期集中講座です。いずれの講座も分かりやすく丁寧な講義で受講者に好評です。本年はオンライン形式で開催し（ライブ配信とオンデマンドのハイブリット方式）、日本だけでなく海外からも参加いただき好評を得ました。

2021年度開催実績

開催回数：5回
参加者数：142名
会場：オンライン開催 (Zoom)

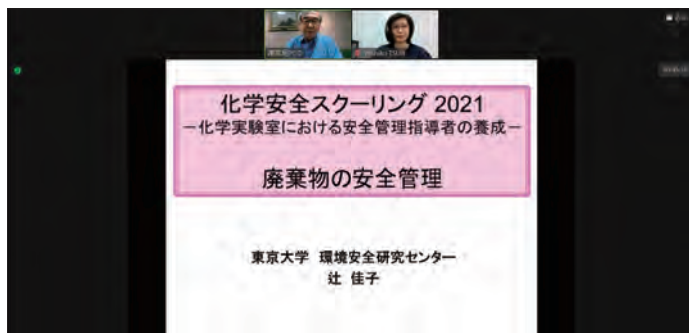


化学安全スクーリング

化学実験を行う大学、研究所等の安全管理担当者、指導者や化学企業の研究所、プラント、生産現場で安全管理に関わるすべての方を対象とした化学実験に関わる安全と衛生に関して総合的に学ぶ毎年恒例の講習会です。ここで得られる情報は、参加者自身の安全管理はもちろんのこと、職場での安全教育、安全管理に活用されています。

2021年度開催実績

開催回数：1回
参加者数：37名
会場：オンライン開催 (Zoom)



化学を広める・ 未来の化学者を育てる

お子さんから大人まで多くの方に化学を身近に感じてもらいたい、
魅力を知ってもらいたい、という想いのもと、様々な取り組みを実施しています。

実験教室など

未来を担う子供たちに化学の面白さを知ってもらうため、日本各地で実験教室や講演会などを実施しています。学校ではできないような体験ができると大変好評です。

2021年度開催実績

開催件数：80件

参加人数：約3,600名



〔上〕 ひらめき☆ときめきサイエンス（群馬県）

〔下〕 第109回化学への招待（2021）～化学への夢をリモートでつなぐ～（長崎県）



化学の日（10月23日）

10月23日は化学の日です。この日はアボガドロ定数（1 mol の物質中に存在する粒子の数 = 6.02×10^{23} 乗）に由来します。2013年10月、日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会の4団体は、化学および化学産業の魅力、社会への貢献などを広く知っていただきたいという想いのもと、10月23日を「化学の日」その日を含む月曜日から日曜日までの1週間を「化学週間」と制定しました。この時期には日本各地で化学の日にちなんだイベントを開催しています。化学の理解拡大が進み、化学の道へ進む子供たちが増えることを望んでいます。



長崎大学オープンキャンパス（長崎県）

化学だいすきクラブ

小・中学生を対象に、情報や体験機会の提供を通じて子どもたちが化学を好きになり、将来化学の分野で活躍する人材に育ってほしいという想いから2004年に発足しました。本事業は、多くの方のご支援のもと、寄付金で運営されています。

2021年度開催実績

ニュースレター発行：3回

体験型イベント：（COVID-19の影響で開催中止）

メンバー：2,044名



ニュースレター

化学グランプリ・ 国際化学オリンピック

1998年、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として「化学グランプリ」が開催されました。現在では3,000名を超える中高生の参加者が化学の力を競い合っています。また、本大会で選抜された日本代表生徒4名は毎年7月に10日間の予定で開催される国際化学オリンピックに参加します。2022年は中国（天津）で開催される予定です。

2021年度開催実績

● 化学グランプリ（COVID-19の影響でオンライン開催）

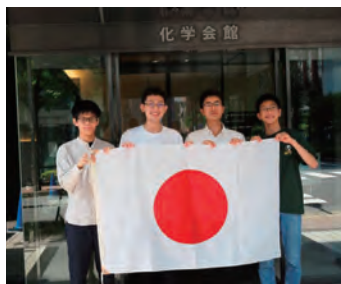
〔一次選考〕参加者数3,257名

〔二次選考〕参加者数119名

● 第53回国際化学オリンピック日本大会

（COVID-19の影響でオンライン開催）

代表生徒4名参加（銀メダル3銅メダル1）



〔上・中・下〕国際化学オリンピック代表 表敬訪問（文部科学省、経済産業省）

中高生会員

2016年、化学に関心が高い中高生の皆さんのために「中高生会員制度」をスタートさせました。年会へ無料参加できるほか、メルマガで「化学と工業」「化学と教育」などのピックアップ記事や化学イベント情報も豊富に提供しています。ピックアップ記事・イベント情報は中高生会員専用のウェブサイトでご覧いただけます。



中高生会員特典

キャリア支援

「学生」、「企業」、「大学」、それぞれが
face to faceで正しい情報を交換することが重要であるという考えのもと、
キャリア支援事業を行っています。

企業合同説明会

企業合同説明会は、就職活動の効率化・短期化を目的に「化学」に特化し毎年3月に開催するもので、法人会員の企業、化学系等専攻の学部生・大学院生が多数参加します。企業、学生のマッチングの場として、高い評価を得ています。

2021年度開催実績

- 化学系学生のための企業合同説明会（関東支部）
会場：オンライン開催（You Tube）



企業合同説明会（2019年度）

就職交流会

就職交流会は、大学の就職担当教員と企業人事担当者の情報交換を目的に毎年冬に開催されています。参加者からは「今回も複数の企業様と、今後に繋がる交流をすることができた」（大学関係者）「オンライン開催なので参加がしやすかった」（企業関係者）といった感想を頂戴しています。

2021年度開催実績

- 第25回就職交流会
参加者数：80名超（22大学、25社）
会場：オンライン開催（Zoom）



Zoomを使用した情報交換

企業現場見学会

2017年から学生会員を対象に企業現場見学会を開催しています。工場や研究所の見学やそこで働く方との交流を通じ、企業で働くイメージを持ってもらうことを目的としています。2021年度はオンラインで開催し、参加した学生からは「日本化学会会員限定のイベントということもあり、少し専門的な内容まで踏み込んだ説明をしていただき非常に貴重な機会となった。」「現状なかなか現地に赴いて見学するという機会が得られない中、リアリティの高い見学を行うことができた。」というような感想を頂戴しています。

2021年度開催実績

- 花王株式会社
花王エコラボミュージアム（オンライン開催）・・・33名
- 株式会社ダイセル
イノベーションパーク、網干工場（オンライン開催）・・・13名



[上・下] 花王（株）花王エコラボミュージアム見学

キャリア座談会・研究講演会

企業で活躍する先輩方と学生とがざっくばらんに質疑応答をするセミナーです。学生にとって自身のキャリア形成を考える良い機会となっています。また、企業側としても学生の不安や疑問を開けるため、自社アピールのポイントを整理できると好評です。2021年度はオンラインで開催し全国各地の学生さんに参加いただきました。「親しみやすく、話しやすい雰囲気であったため、とても質問しやすかった。」というような感想を頂戴しています。

2021年度開催実績

開催回数：2回
参加者数：19名
会場：オンライン開催（Zoom）

● キャリアデザイン研究講演会（近畿支部）

本イベント（11月計2回）

企業11社、学生延べ約110名参加

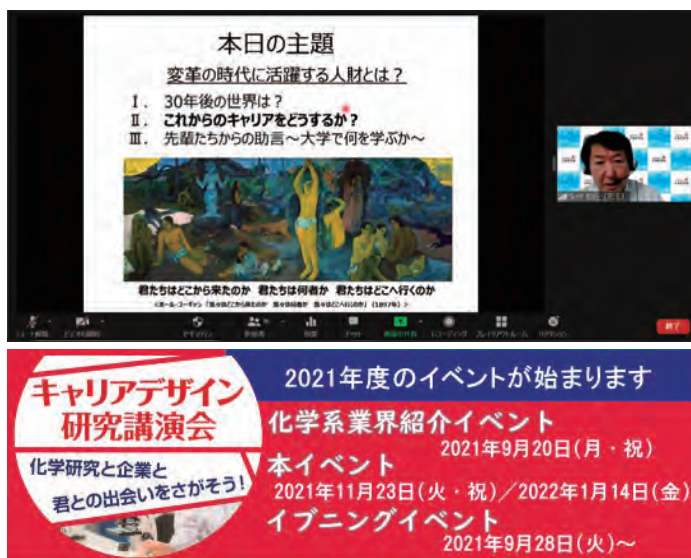
化学系業界紹介イベント（9月）

企業5社、学生約300名参加

イブニングイベント（9～11月計8回）

企業2社×8回、学生延べ約160名参加

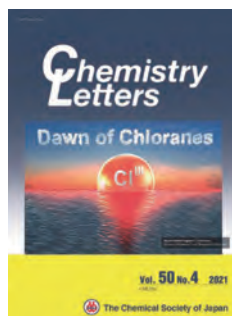
会場：オンライン開催（Zoom）



[上] キャリア座談会
[下] キャリアデザイン研究講演会

論文誌・出版

1891年の「化学訳語集」刊行以降、様々な出版事業を行っています。
機関誌・英文論文誌・書籍を発行し、社会の変化を捉えた誌面の充実、
最新の研究や生活の中の化学を社会に届けるための情報発信に取り組んでいます。



ジェンセン・レイダーの 化学論文を書くための 英語講座



吉野先生エッセイ



カーボンニュートラル
総説



熱活性化遅延蛍光
(TADF) 総説



有機合成の
デジタル化総説

世界から見えるジャーナルを目指して

Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) (1926年創刊、現在95巻、年間300論文ほど掲載)とChemistry Letters (CL) (1972年創刊、現在51巻、年間400論文ほど掲載)を電子版で発行しています。世界から見えるジャーナルを目指して、メールでの論文PR、国際会議での広告掲載やフライヤーの配布、ジャーナル名を冠した賞の授与を行っています。2021年度は、BCSJではFrontiers of Molecular Scienceをテーマに、金属触媒を用いた有機合成、炭素材料、電池材料などの最先端の論文を60報掲載しました。また、Masterpiece Materials with Functional Excellenceをテーマに、材料にフォーカスした論文を多く掲載し、「カーボンニュートラル」に関する総説も掲載しています。CLでは、Vol. 50 Commemorative Highlight Reviewと称して、国内外の若手研究者を中心に、触媒、材料、有機合成、バイオなどの広い分野のトピックス総説を掲載しています。

ノーベル化学賞の吉野彰先生のエッセイを掲載

ノーベル化学賞を受賞した吉野彰先生に、エッセイをご執筆いただき掲載しました。

●タイトル

「The Lithium-ion Battery: Two Breakthroughs in Development and Two Reasons for the Nobel Prize」

メール配信やツイッターを利用して掲載論文をPR

個人会員（ディビジョン登録者）を対象に掲載論文情報の配信を開始。各ディビジョンに関連する内容の論文で、フリーアクセス論文を中心にお知らせしています。ツイッターでは、掲載論文情報や国際会議等でのジャーナルPRのお知らせを配信しています。フォロワー数は1,800名を越えました。昨年から、「ジェンセン・レイダーの化学論文を書くための英語講座」としてネイティブによる化学英語の基礎の基礎を配信しています。

Impact Factor (IF) の最高値更新

2021年に発表となったIFはBCSJが5.488で過去最高値を更新しました。CLは1.389となりました。

化学と工業誌：最新情報を会員に

毎月1日に発行し、全会員に配布配布しています。毎号、特集テーマとして化学や化学工業分野の最新情報を取り上げ、分かりやすく解説した記事を掲載しています。この他に、注目トピックスのインタビューを扱った記事「OVERVIEW」、会員の紹介欄「CCIサロン」などを掲載しています。2022年1月号では、コロナ禍で注目を集める抗菌・抗ウイルスに着目し「進化する抗菌・抗ウイルスの化学」という特集を掲載しました。



化学と教育誌：教育現場に役立つ情報を

毎月20日に発行し、教育会員に配布しています。毎号、教育現場で役立つ化学実験の紹介や最新情報を分かりやすく解説した記事や会員からの投稿記事も審査の上掲載しています。2021年度は、コロナ禍で注目を集める「免疫の化学」や教育現場で役立つ「演示実験授業の実践例」などの特集を実施しました。



様々な刊行物

日本化学会では、「化学便覧」「実験化学講座」「カレントレビュー」「化学の要点」など、数多くの書籍を編集・刊行しています。2021年度は、注目度の高い「赤外線の化学」や「色素材料」をテーマとして取り上げています。



海外化学会との連携

海外大手出版社やアジアの化学会と連携し、英文論文誌を発行しています。また、海外化学会と共同オーナーとして化学系プレプリントサーバ「ChemRxiv™」の支援・開発・運営しています。

社会に向けた様々な取り組み

時代の変化と共に学会に求められるものも変わります。

本会においても、その変化に対応するべく様々な取り組みを行っています。

吉野彰研究助成

リチウムイオン電池開発における革新的な功績により 2013 年度に The Global Energy Prize (2002 年にロシアで創設されたエネルギー分野のノーベル賞と云われる最も権威ある賞) を受賞された吉野 彰 氏 (旭化成株式会社, 日本化学会名誉会員) が, その報奨金をエネルギー, 環境, 資源分野の研究活動の活性化のために有効に使いたいとの思いから本会に寄付され, その基金を基に 2014 年度に「吉野彰研究助成事業」が創設されました。募集テーマについては毎年吉野先生自ら設定されております。

2021年度募集テーマ

『アンモニアを水素源とした

炭酸ガスの還元反応によるメタン製造技術』

助成対象者: 佐藤 勝俊 (名古屋大学 大学院工学研究科)

研究題目: 準安定構造活性点の集積による CO_2 とアンモニアからのメタン一段合成を目指した高活性ハイブリッド触媒の創製



化学遺産関係

委員会への寄付を元に著名な化学者との対話冊子の作成や化学関連の文化遺産を調査, 認定, 発表をしています。2021 年は 3 件が化学遺産に新規認定されました。

2021年度認定化学遺産

- 第 058 号 日本の放射化学の先駆者 飯盛里安の IM 泉効計
- 第 059 号 日本の科学技術文献抄録誌の先駆け: 『日本化学総覧』
- 第 060 号 日本の合成香料工業創成期の資料



[右] IM 泉効計 (昭和前期)
(理化学研究所蔵)

[左] 甲斐荘ノート (高砂香料工業株式会社蔵)

グローバル化

化学の世界で国際的に活躍できる人材育成、研究推進を強力にサポートしています。
また、持続性社会の確立、SDGsの達成、地球環境の保全などの課題に、
基幹科学としての「化学」の後ろ盾を担う本会が「solution provider」として
どのような貢献と解決策を提示できるか、政策への提言やCS3 (Chemical Science and Society Summit) の場を
通じて世界の化学会と協調して情報発信を行っています。

国際的連携・協調, 異文化交流

化学の国連ともいえるべき IUPAC^{※1} や、アジア化学連盟；FACS^{※2} との国際協調、また ACS^{※3} と密接に連携し顕彰する Nakanishi Prize, RSC^{※4} との二国間協定に基づく PCCP Prize 受賞選考、国際シンポジウムなどを行っています。また様々な国際会議にも出席し化学会の国際競争力の向上と認知度拡大に貢献しています。

- ※1 国際純正・応用化学連合
- ※2 Federation of Asian Chemical Societies
- ※3 アメリカ化学会
- ※4 英国王立化学会



ACS Exco member

Pacificchem (環太平洋国際化学会議) の開催

世界化学界最大級の国際学会 Pacificchem は、1984年に始まって以来5年ごとにホノルルで毎回開催され、今回で通算8回目の開催となりました。(当初2020年開催予定。COVID-19で1年延期後2021年10月初の完全オンライン開催決定。会期2021年12月17日～22日)

今回は“Pacificchem 2021: A Creative Vision for the Future”をメインテーマとし、化学の根幹をなす(1) Core Chemistry (有機／無機化学など基幹8分野)とは別に(2) Chemistry for Global Challenges (ナノテク、持続性など7分野)としてSDGsやCarbon Neutral, 医薬学、ビッグデータなど今後化学がさらに貢献する関連周辺分野新領域を拡充、15分野からシンポジウムや講演を募集しました。



Pacificchem2021

地域	参加国数	申込数	主要国申込数
アジア・中東	23	4,507	日本 (3,491) 中国 (380) 韓国 (352)
北南米	10	3,189	米国 (2,616) カナダ (526)
欧州	28	753	ドイツ (186) 英国 (115) フランス (100)
オセアニア・南極	4	251	豪州 (202) NZ (45)
アフリカ	5	11	南ア (7)
ロシア	1	9	

2021年度開催実績

参加者数：8,720名(世界71の国・地域から参加)
最大利用アカウント：約10,500名(12月18日)
講演件数：講演数9,295件(口頭講演6,877、ポスター講演2,418件)
399シンポジウム／1,142セッション
会場：オンライン開催(Zoom)

表彰事業

化学の基礎または応用に関する研究業績、並びに我が国の化学工業の技術開発、化学教育上の業績、本会活動への功績について、毎年各賞の選考委員会において厳正な選考が行われ、理事会の審議を経て決定、受賞者の表彰を行っています。

2021年度各賞受賞者（敬称略）

第74回日本化学会賞

有賀克彦（NIMS）
グン チェンビン
龔 劍萍（北大院先端生命）

関 隆広（名大院工）

時任宣博（京大化研）

古田弘幸（九大院工）

宮坂 博（阪大院基礎工）

第39回学術賞

岩本武明（東北大院理）

大塚英幸（東工大物質理工院）

岡本敏宏（東大院新領域）

神川 憲（阪府大院理）

山東信介（東大院工）

Citterio Daniel（慶大院理工）

根岸雄一（東理大理）

前田 理（北大院理）

矢貝史樹（千葉大院工）

山口和也（東大院工）

第71回進歩賞

石垣侑祐（北大院理）

石割文崇（阪大院工）

稲葉 央（鳥取大院工）

神戸徹也（東工大IIR）

草田康平（京大白眉セ）

高野慎二郎（東大院理）

生井飛鳥（東大院理）

松野太輔（東大院理）

吉野達彦（北大院薬）

第10回女性化学者奨励賞

鎌田瑠泉（北大院理）

KIM Yuna（北大電子研）

第70回化学技術賞

井上修一
（大阪ガスマーケティング）

中尾孝之（大阪ガス）

齋藤 禎
（大阪ガスマーケティング）

西村茂文（シミズ）

藤本哲朗（京セラ）

小林定之

松本英樹

松岡英夫

熊澤貞紀

落合伸一郎

（以上、東レ）

第27回技術進歩賞

小藤勇介（東芝）

第46回化学教育賞

三好徳和（徳島大院創成科学）

村田静昭（名大名誉）

第39回化学教育有功賞

篁 耕司（旭川高専）

松岡雅忠（福岡大理）

山本喜一（芝浦工大柏中高）

第40回化学技術有功賞

豊田朋範（分子研）

第17回功労賞

岡崎廉治（元東大院理）

務台 潔（元東大院総合文化）

第1回長倉三郎賞〔新設〕

前田 理（北大院理）

※長倉三郎賞は、本会の個人正会員または教育会員であって、特に独創性の優れた研究成果または業績をあげた者で、かつ高い将来性が期待できる者に授与します（副賞 1,000 万円）。
本賞の授賞年度における日本化学会賞を除くすべての日本化学会各賞の受賞者を受賞候補者とします。

企業・団体からのご支援

化学に関連する

多くの企業、団体のご支援を頂いております。

100口以上

AsahiKASEI

KaO

TORAY

FUJIFILM

MITSUBISHI
CHEMICAL

50口以上

AGC

Kaneka

kuraray

SHOWA
DENKO

住友化学

DAICEL
株式会社ダイセル

Color & Comfort

DIC 株式会社

TOSOH

東ソー株式会社

MARUZEN
PUBLISHING

Mitsui Chemicals

10～49口

化学

(株) ADEKA
荒川化学工業(株)
字部興産(株)
(株) 大阪ソーダ
関西ペイント(株)
クミアイ化学工業(株)
(株) クレハ
興和(株)
三洋化成工業(株)
JSR(株)
JNC(株)
塩野香料(株)
昭和電工マテリアルズ(株)
信越化学工業(株)
住友精化(株)
住友ベークライト(株)
積水化学工業(株)

セントラル硝子(株)
高砂香料工業(株)
デンカ(株)
東亜合成(株)
東洋インキSCホールディングス(株)
(株) トクヤマ
日亜化学工業(株)
日油(株)
日産化学(株)
日鉄ケミカル&マテリアル(株)
日本化学工業(株)
日本化薬(株)
(株) 日本触媒
日本ゼオン(株)
日本曹達(株)
三菱ガス化学(株)
ライオン(株)

医薬品

アステラス製薬(株)
小野薬品工業(株)
協和キリン(株)
塩野義製薬(株)
住友ファーマ(株)
第一三共(株)
大正製薬(株)
田辺三菱製薬(株)
中外製薬(株)
Meiji Seika ファルマ(株)

ゴム製品

(株) プリチストン
横浜ゴム(株)

食料品

味の素(株)
サントリーホールディングス(株)

石油・石炭製品

出光興産(株)
ENEOS(株)

繊維製品

帝人(株)

機械

ダイキン工業(株)

建設業

日揮グローバル(株)

公的研究機関

(国研) 理化学研究所

精密機器

(株) 島津製作所

電気機器

コニカミノルタ(株)

非鉄金属

住友電気工業(株)

口数、業種別に50音順・敬称略(2022年4月1日現在)

他にも幅広い業種(電気・ガス、鉄鋼、パルプ・紙、輸送用機器等)を含む多くの企業・団体にご支援いただいております。
詳細は下記 URL をご参照ください。(413 社)

<https://www.chemistry.or.jp/societyguide/organization/corporationlist.html>

沿革

1878 年	化学会創立，翌年，東京化学会と改称
1898 年	工業化学会創立
1921 年	東京化学会が日本化学会と改称
1941 年	社団法人に移行
1948 年	日本化学会と工業化学会が合併
1978 年	創立 100 周年記念
1991 年	化学会館竣工
2003 年	創立 125 周年記念（天皇皇后両陛下ご臨席）
2011 年	公益社団法人に移行
2018 年	創立 140 周年
2020 年	化学会館改修

会員（2022 年 2 月末現在）

約 2.3 万人の会員を擁し，国内自然科学系の学会としては最大の規模を誇る。法人正会員は 413 法人。

会員種	
個人正会員	16,482
学生会員	4,377
中高生会員	45
教育会員	1,504
名誉会員	63
法人正会員	413
公共会員	298
合計	23,182

目的・事業

（目的）

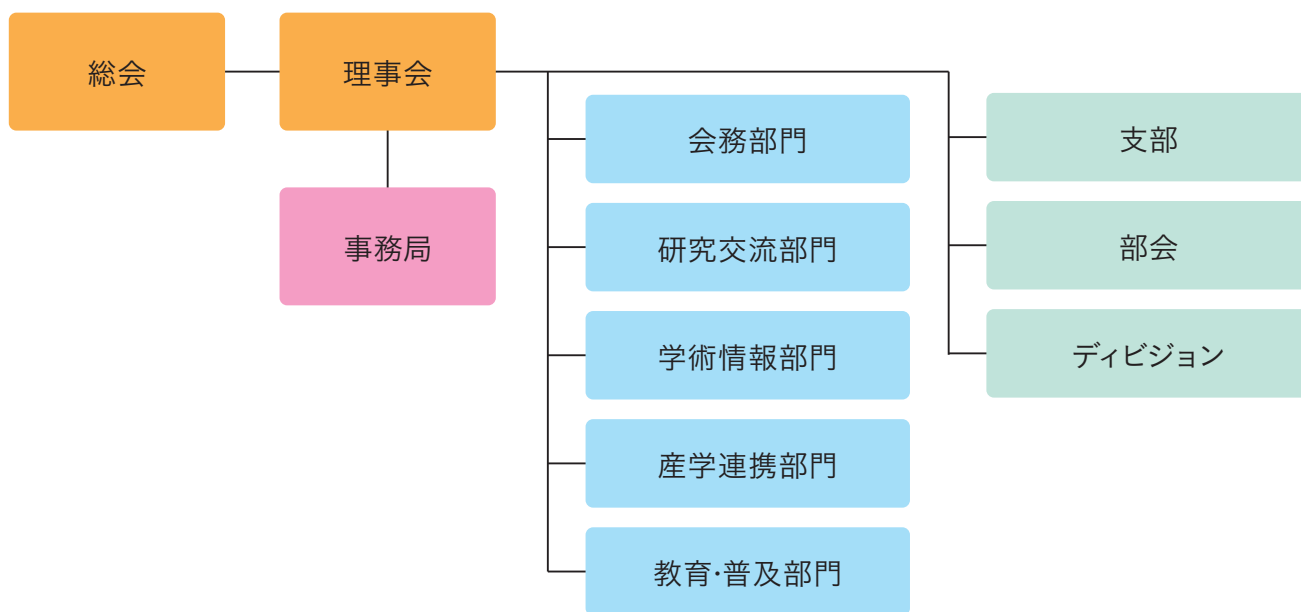
本会は，化学に関する，学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及，並びにそれを担う人材の育成を図り，もって社会の発展に寄与することを目的とする。（定款第 3 条）

（事業）

本会は，前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 学術集会の開催
 - (2) 会誌並びに学術図書の刊行
 - (3) 内外の関連学協会との連携，協力
 - (4) 研究の奨励及び研究業績の表彰
 - (5) 産学，産産交流並びに連携の推進など産業の振興に資する事業
 - (6) 化学知識の普及に資する事業
 - (7) 化学教育の振興など人材の育成に資する事業
 - (8) 化学の振興に関する政策提言
 - (9) 科学及び技術に関する調査，研究
 - (10) 科学及び技術に関する研究の助成
 - (11) その他本会の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は，日本全国及び海外において行うものとする。（定款第 4 条）

組織図



役員 (2022年5月25日現在)

会長	菅 裕明 (東京大学)	理事	君塚信夫 (九州大学)
筆頭副会長	塩谷光彦 (東京大学)	理事	佐藤啓文 (京都大学)
常務理事	澤本光男 (中部大学)	理事	住田康隆 (㈱日本触媒)
		理事	関根理香 (静岡大学)
副会長	相田美砂子 (広島大学)	理事	早川慎二郎 (広島大学)
副会長	阿部晃一 (東レ㈱)	理事	平田裕人 (トヨタ自動車㈱)
副会長	梅谷博之 (帝人㈱)	理事	福岡 淳 (北海道大学)
副会長	塩野 毅 (広島大学)	理事	宮崎あかね (日本女子大学)
副会長	高田十志和 (広島大学)	理事	宮村一夫 (東京理科大学)
理事	魚住泰広 (分子科学研究所)	理事	森 初果 (東京大学)
理事	氏家誠司 (大分大学)	理事	和田健彦 (東北大学)
理事	岡添 隆 (AGC ㈱)	理事	渡辺 淳 (デンカ㈱)
理事	小倉 賢 (東京大学)	監事	久新荘一郎 (群馬大学)
理事	生越専介 (大阪大学)	監事	辻 康之 (京大名誉教授)
理事	長田裕之 (静岡県立大学)	監事	西本 信 (旭化成㈱)
理事	金井 求 (東京大学)	監事	村上洋太 (北海道大学)

計 31 名

会計報告 (2021 年度)

貸借対照表 (要約版)

2022 年 2 月 28 日現在

科目	(単位：千円)
〈資産の部〉	
流動資産	202,191
固定資産	2,139,108
基本財産	644,357
特定資産 (負債対応)	187,508
特定資産 (指定)	572,196
特定資産 (一般)	227,520
その他固定資産	507,527
資産合計	2,341,299
〈負債の部〉	
流動負債	243,060
固定負債	218,473
負債合計	461,533
〈正味財産の部〉	
指定正味財産	572,195
一般正味財産	1,307,571
正味財産合計	1,879,766
負債及び正味財産合計	2,341,299

正味財産増減計算書 (要約版)

2021 年 3 月 1 日～2022 年 2 月 28 日

科目	(単位：千円)
〈経常収益〉	
受取会費等	250,499
賃貸関連収益	118,638
購読・印税等収益	112,900
イベント関連収益	108,351
補助金・寄付金等収益	92,579
運用等収益	13,655
その他収益	55,636
経常収益 計	752,258
〈経常費用〉	
事業費	688,763
管理費	55,266
経常費用 計	744,029
投資有価証券評価損益	2,762
当期経常増減額	10,991
〈経常外収益〉	
過年度消費税修正額	7,571
経常外収益 計	7,571
当期経常外増減額	18,562
法人税等	70
当期一般正味財産増減額	18,492

受取補助金内訳

交付者	(単位：千円)
日本学術振興会 (国際情報発信強化)	35,300
徳山科学技術振興財団 他	5,979
計	41,279

受取寄付金内訳

	(単位：千円)
化学振興事業	4,707
化学だいすきクラブ事業	5,500
化学遺産事業	1,533
計	11,740

ノーベル賞受賞会員



©*The Nobel Foundation.

2019年
受賞

化学賞

吉野 彰

受賞理由：リチウムイオン電池の開発
1999年 化学技術賞受

2015年
受賞

生理学・医学賞

大村 智

受賞理由：線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見

2014年
受賞

物理学賞

天野 浩

受賞理由：高輝度青色発光ダイオードの発明

2014年
受賞

物理学賞

赤崎 勇

受賞理由：高輝度青色発光ダイオードの発明

2010年
受賞

化学賞

根岸英一

受賞理由：有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング
1999年 日本化学会賞受賞

2010年
受賞

化学賞

鈴木 章

受賞理由：有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング
1989年 日本化学会賞受賞

2008年
受賞

化学賞

下村 脩

受賞理由：緑色蛍光タンパク質の発見とその応用

2002年
受賞

化学賞

田中耕一

受賞理由：生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発

2001年
受賞

化学賞

野依良治（日本化学会 元会長）

受賞理由：不斉触媒による水素化反応の研究
1985年 日本化学会賞受賞

2000年
受賞

化学賞

白川英樹

受賞理由：導電性高分子の発見と開発

1981年
受賞

化学賞

福井謙一（日本化学会 元会長）

受賞理由：化学反応過程の理論的研究



公益社団法人
日本化学会

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
TEL: 03-3292-6161 FAX: 03-3292-6318
<https://www.chemistry.or.jp/>

デザイン: 株式会社マツダオフィス
印刷: 三永印刷株式会社

2022.06.

